

# 假想と実力の競争

成人病から  
三活習慣

## 生活習慣病への転換

死亡率が低下し、主要な死因

が癌、心臓病、脳血管障害のよ  
うな疾病に移行した構造変化を  
受け、厚生省は昭和31年に40  
歳前後から死亡率が高くなる疾  
患を成人病と呼称することを提  
言し、早期発見（二次予防）、  
早期治療（三次予防）に重点を  
おいた政策を進めてきた。その

結果、長期通院治療を要する成人病患者は千二百万人を越え、医療費は高騰したが、その一方で成人病合併症の罹患率や死亡率に明らかな改善が認められないことから、厚生省は平成8年に成人病対策を修正して、発病に大きく関わっている生活習慣を改めることで発病を未然に防ぐ、すなわち成人病の一次予防に重点を移す政策に転換し、「生活习惯病」と呼称することを提唱したのである。

文明病、スウェーデンには裕福病という別称があるよう、文明に伴う食習慣や運動習慣の変化に加えて、生活の場から光線を失ったことが関わっている。今日は光線医学の立場から、生活習慣の中の光線の意義について、光線を自力では浴びれない乳児と浴びる機会が減りがちな高齢者への影響を考察する。

## クル病はどんな病気

かつて歐州で多発し原因不明の奇病として恐れられたクル病は、日光を浴びさえすれば予防できた典型的な生活習慣病だったことが明らかになっている。しかしに生活習慣を重視する政策に転換した厚生省が、母子手帳から乳児に日光浴をさせるよう勧める条項を削除したのは重大な誤りと言わなければならぬ。厚生省はダイオキシンの最も優れた乳児の栄養源として母乳を推奨しているが、母乳に含まれることを承知した上で、

を失ったことが関わっている。今回は光線医学の立場から、生活習慣の中の光線の意義について、光線を自力では浴びれない乳児と浴びる機会が減りがちな高齢者への影響を考察する。

は乳児に必要なカルシウムは含まれているが吸収に欠かせないビタミンDはないからである。これでは健やかに育つことはできない。

厚生省は日本は日光に恵まれた亜熱帯にあり重症なクル病に苦しめられた歴史がないため母子手帳から日光浴を削除しても問題になることは起きないと軽く判断したのかも知れないが、今の日本は以前に比べ豊かな文明社会を築いており、母乳栄養で日光浴をさせない育児が行われても不思議でない状況にある。厚生省は次世代を担う乳児の健康に責任を持たなければならぬ立場にあり、母乳栄養が

日光浴をさせなければ確実にクル病になる悲惨な結末は欧州での歴史が如実に示しているのだから、削除した条項を元に戻して乳児に日光浴をさせる生活習慣の意義を強調すべきである。

### 健全な老後を支える光線浴

高齢者は、病気にならず、高いレベルの身体精神機能を保持し、創造的な社会活動に従事する、こんな健全な老後を願つてゐるはずである。

サナモア光線協会  
サナモア中央診療所

## ナナモア光線協会 廿二モア由中診療所

医学博士 宇都宮 光明

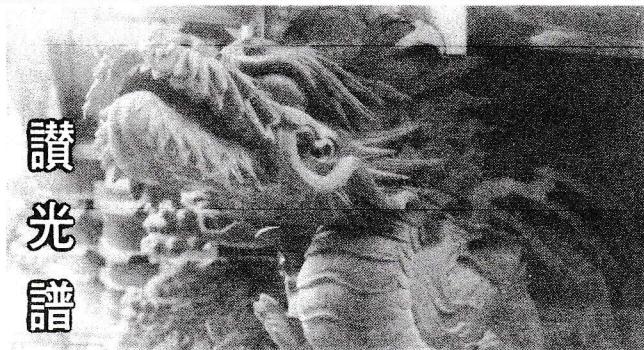
サナモ  
サナモ  
に老人施設の高  
齢者を対象にし  
た本邦や諸外国  
の調査結果は、  
高齢者の50%から75%で血中ビ  
タミンD値が低下してカルシウ  
ムの吸収量が足りないため、骨  
からカルシウムを動員する副甲  
状腺ホルモンのパラソルモンの  
値が上昇している。その結果、

# 健やかに育ち健やかに老いる

#### —サナモアを生活習慣にする利点—

の調査結果は、高齢者の50%から75%で血中ビタミンD値が低下してカルシウムの吸収量が足りないため、骨からカルシウムを動員する副甲状腺ホルモンのパラソルモンの値が上昇している。その結果、

骨の粗鬆化は進み、生活習慣病の危険因子になり、免疫調整能は減退し、筋力は低下する。結果は言うまでもないが、些細なことで病的骨折を起こして寝たきり老人になり、生活習慣が関係する老人病や免疫異常に罹患し、老人性肺炎のような感染症が致命傷になる。このような病的な老後ではなく健全な老後を求めるなら、光線を浴びるのが当たり前の自然の摂理に逆らつてはならない。



「龍」

宇都宮義真撮影

## 讚光譜

昭和十一年六月十九日に世界中から天文学者が僅か二分間の女満別に集うと聞く。素人が考えると、太陽は人類創生のはるか昔から頭上に日々燐々と輝いており、地球上に絶え間なく光と熱を供給しているのだから。太陽の研究でわざわざ太陽が月で隠される日食を選ぶ必要はないように思つてしまふが、太陽が放射するエネルギーが余りに強烈なため、日食を利用して太陽の周囲を調査研究し、太陽について知識を深めようと言うのである。

太陽は地球が属する太陽系の中心にあり、自身で発光する恒星である。太陽は太陽系の全質量の九九・九%を占め、半径は地球の百九十九倍、質量は地球の十三万倍で、表面温度六千度に相当する輻射線、すなわち光と熱を太陽から地球まで一億五千万キロの道のりを八分二十秒かけて地球に届けている。しかし太陽が発光し放射する莫大なエネルギーの源はなかなか解明されなかつたのである。

その後、水素のような原子の原子核が融合する原子核反応の

皆既日食観測のために北海道の女満別に集うと聞く。素人が考えると、太陽は人類創生のはるか昔から頭上に日々燐々と輝いており、地球上に絶え間なく光と熱を供給しているのだから。太

陽の研究でわざわざ太陽が月で隠される日食を選ぶ必要はないように思つてしまふが、太陽が放射するエネルギーが余りに強烈なため、日食を利用して太陽の周囲を調査研究し、太陽について知識を深めようと言うのである。

## 万物を育む

### 太陽エネルギー

太陽が放射する莫大なエネルギーの二十三億万分の一が地球上に到達すると考えられているが、この太陽からのエネルギーが万物を育み、すべての活動エネルギーの根源になるのである。ちなみに太気がないと仮定して、太陽に垂直に面した単位面積が単位時間に受ける放射エネルギーを太陽定数というが、毎分一平方センチメートル当たり約二カロリーである。植物はこのエネルギーを取り込んで、炭酸ガスと水を原料にして澱粉と酸素をつくるなんとも驚くべき神秘としか言いようがない光合成を白日の下に営んでいる。人を含め植物のお陰でエネルギーを食物から得て生命を維持してきた。このようにすべてのエネルギーは、太陽エネルギーに依存するのであって、医療で生薬として用

際には水素の原子核が融合する原子核反応、言い換えると巨大な水素爆弾と考えられている。太陽が殆ど水素ガスから成るところから、今では太陽エネルギーの源は水素の原子核が融合する

## 応用される光と熱 治療に

病気はいかにして治るのか、と考えているかも知れないが、病気を治す主役は環境に適応する大抵の人は医師が治してくれる。病気は自然治癒力によって治すのである。こうして見ると病気を治す主役は環境に適応する大抵の人は医師が治してくれる。病気は自然治癒力によって治すのである。この自然治癒力は、自分の自然治癒力を高めるために、太陽エネルギーの自然力を活用する。太陽エネルギーの自然力を活用するには、自身でこれを自然力として得て自然治癒力を高めなければならない。この自然治癒力が必要な病気を治すことを主眼とした治療であり、したがって広範な適応症を有するのである。何時でも何處でも使えるサンモア光線療法は、太陽エネルギーの自然治癒力を高める目的とする。自然治癒力を高めるためには、太陽を身近にした理に適した治療法である。

## 地球と太陽エネルギー

宇都宮 義真

いられる草木皮も動物の臓器も太陽エネルギーがなければ存続しないのである。

太陽エネルギーが不足して失つた健康を薬と栄養で取り戻すことは絶対にできないのであり、太陽エネルギーの自然力を度外視して健康な人生は考えられない。こうして見ると病気の治療においても、万物を創造した太陽エネルギーの光と熱を用いて万能的な効果があるのは当然とうなづけるのであり、

今更「光線で病気が治りますか」などと質問するのは、自己の自然力に対する認識不足をさらけ出しているに過ぎないのである。

当研究所で創案し普及に努めているサンモア光線療法は、太陽光線に近似した連続波長を有する温和な光線を放射し、光と熱の作用で自然治癒力を高める目的とする。すなわち病人の身体を治すことを中心とした治療であり、したがって広範な適応症を有するのである。何時でも何處でも使えるサンモア光線療法である。

したがつて自然治癒力の不足を補うには、自身でこれを自然力として得て自然治癒力を高めなければならない。日陰の植物がどんなに良い肥料や水を与えても育たないように、

太陽エネルギーの光と熱であり、太陽エネルギーの源泉は、太陽エネルギーの光と熱であり、

生理的エネルギーの源泉は、太

陽エネルギーの光と熱であり、

「光と熱」

昭和11年6月5日発行

「健康と光線」

昭和25年1月5日発行

「太陽は原子爆弾である」

を要約した。

## サナモア光線治療院 の地鎮祭挙行

前日、降り積もった雪がうつすらと残るなか、平成十二年二月九日、工事関係者など多数の御臨席を仰ぎ、サナモア光緑協

正範

宇都宮

所は目黒駅  
から歩いて  
六分、地上  
三階建てと

ア光線協会

# サナモア便り

vol. I

の治療、サナモア光線治療師・カウンセラーの養成、研究会の開催であるが、光線治療師やカウンセラーの方が気軽に来られるような施設にしたいと考えている。現在の計画では、一階を事務所と駐車スペースとし、二

### での主な業

## 月の竣工、 九月の開院

階にルーフ式マルチ・アーケードを設置して、二階には養成講座や研究会を開くための会議室を確保する予定である。また、治療院にとっては朗報であるが、今秋は、目黒駅に二本の地下鉄（南北線と三田線）が開通する予定になつており、既にあるJRと東急日暮線を合わせ、四本の電車が乗り入れることになる。この地下鉄の開通により、特に、今まで遠回りを強いてきた城北地区との距離が、一段と近づくことになるが、交通機関の利便性に頼らずとも、多くの患者

うに、鋭意努力する所存で  
る。

## サナモア光線治療師 養成講座を東京にて開講

　昨年の「健康と光線」十月号  
に、サナモア光線治療師・サナ  
モアカウンセラー養成講座の募  
集要項をはじめて掲載したとこ  
ろ、多数の問い合わせと申し込み  
をいただいた。一月現在で、  
受講を申し込まれた方は、光線  
治療師とカウンセラーを合わせ  
て二十数名に達しており、東京近  
辺で光線治療師の養成講座を申  
し込まれた七名の方を対象とし、  
二月から東京光線療法研究所内

において、毎週土曜日に養成講座を開講した。出席者は、男性四名、女性三名で、年齢は二歳から六十二歳までと幅広

ところ、希望者の九州地区での年々増加しているが、その希望者は複数の希望者で、込込まれた場合は、開講するつもとも、前向きに受けたい。

く、ご自身で光線療法の効果を  
体験されている方ばかりな  
で、休憩時間には光線談義に花  
が咲き、非常に良い雰囲気のな  
か全員休むことなく終えること  
ができた。次回は四月六日(木)か  
ら三日間の日程で、サナモアカ  
ウンセラー養成講座を東京本部  
において開講する予定となつて  
いるが、今度は、順次、地方で  
の開講を予定している。今のと  
ころ、希望者の多い関西地区と  
九州地区での年内開講を予定し  
込まれた場合は、なるべく早期  
に開講するつもりである。現在  
受講を迷われている方は、是非  
とも、前向きに検討していただき  
ご協力頂ける方、治療院の  
開業を検討なさりたい方は、  
サナモア光線協会までお問  
い合わせください  
〒153-0063  
東京都目黒区目黒4-6-18  
TEL (03) 3793-5281  
3712-5322

サナモア光線治療師  
養成講座を東京にて開講

# ◆募 集 ◆

# サナモア光線治療師 サンモアカウ・カラード

当協会の趣意に賛同され、  
サナモア光線療法の普及に  
ご協力頂ける方、治療院の  
開業を検討なさりたい方は、  
サナモア光線協会までお問

い倉わせください

〒153-0063

東京都目黒区目黒 4-6

3793-5281



## 光と熱

祖父宇都宮義真は、サンモア光線療法の啓蒙活動の一環として、昭和九年一月に本紙の前身にあたる機関紙「光と熱」を創刊し、戦端急を告げた昭和十五年に、紙不足から廃刊に追い込まれるまで続けました。戦後、中国より復員した祖父は、昭和二十五年一月どうにか機関紙を復刊しますが、この時「健康と光線」に改称し今日に至るのであります。祖父が当初「光と熱」と命名した理由は、太陽系の一惑星である地球の生態系が、太陽のもたらす光と熱の恵みによって生まれ、育まれたことは自明の理であるからと思われますが、生態系においては「一生物的要素にすぎない人類もまた、太陽の光線の光と熱の双方の作用によつて支えられているのです。

今回は、光線のもつ光化学作用に熱作用を加えたルーフ式マルチ・アーク療法について説明しますが、その前に、光合成と温度（太陽の熱作用）との関係について簡単に触れます。

## 光合成における熱化学反応

植物が、水と二酸化炭素から

ブドウ糖と酸素を生成する光合

成は、二段階の反応から成りま

る。第一段階は光エネルギーが水を水素と酸素に分解し、酸素

段階は水素と二酸化炭素からブドウ糖を生成する「暗反応」ですが、後者の反応速度は光エネルギーと関係なく、温度によつて決まります。すなわち、光合

成量の決定には、光の強さだけではなく温度もまた重要な役割を担っており、これが温室効果を利用したハウス栽培が盛んになった理由の一つと言えます。

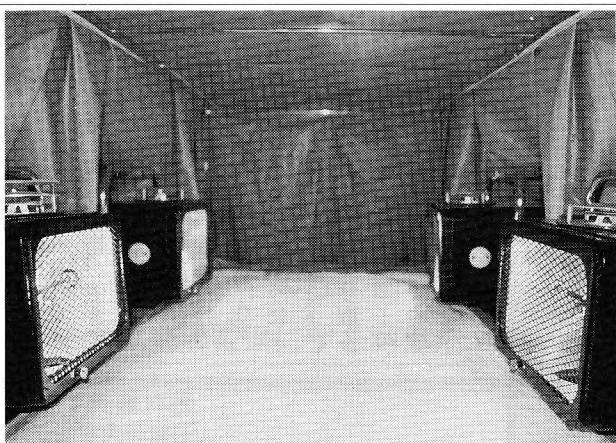
このように反応形式には、光エネルギーを利用する光化学作用のような反応と温度が影響する反応があります。この機序は、写真撮影の際、露出は気温と関係なく光の強さのみで決まる反応であるのに対して、現像時間は光と無関係に現像液の温度で決まるのに似ています。

## 光線の温熱作用を応用した電光浴

医療の世界においても、熱作用を利用する温熱療法は古くから行われてきました。人工光線を用いた温熱療法で最も古い歴史をもつのは、一八九四年、ケロッグが考案した電光浴と呼ばれる治療法で、その装置（6

ページ）は、トンネル状の槽内にエジソンが発明した白熱電球を配列し、高温度の光源から放熱を利用するものです。輻射線は、体内深部に達して体温を上昇させるため、大量の発汗を促す。

サンモアのようにフルスペクトル光線を利用する光線療法に、温熱療法としての利点も取り入れたルーフ式マルチ・アーク療法の特徴



## ルーフ式マルチ・アーク療法 —光と熱の相乗効果—

サンモア光線協会

医学博士 宇都宮 正範

法は、光と熱の相乗効果を期待できる治療法です。方法は、治療用ベッドをカバーで箱型に覆つて作られた閉鎖空間（縦160cm、横75cm、高さ55cm）に患者が入り、四台あるいは五台の光線治

療器で、左右から同時照射する

次に、ルーフ式（閉鎖空間）とした場合の利点について考えてみます。患者の体温が上昇する全身温熱療法には、免疫力を高める効果や毒素を中和する効果などが知られていますが、なかなかでも免疫力の増強は、感染症の予防や治療に役立つとともに、悪性腫瘍の発生も未然に防ぎます。私達は、しばしば感染症の際に発熱しますが、これも熱によって少しでも自身の免疫力を高め外敵を倒すためには、必要な症状であることが納得できます。

また、体温が上昇すると体温調節のため、視床下部の発汗中

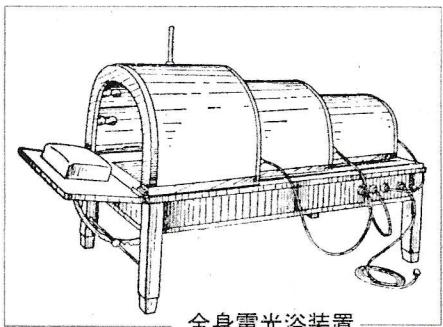
（六ページにつづく）

ものです。開放空間において光線照射した場合でも、深達性のある赤外線の温熱作用で身体は芯から温まりますが、閉鎖空間に高まります。また、実験データから、ルーフ内の温度は、開始から45分で50度近くにまで上昇しますが、それに伴って湿度が低下するため、不快感を訴えることはありません。治療中の多くの患者が気分良く寝てしまふことからも明らかです。

。

(五ページからつづく)

枢が作動して温熱性発汗が促され、エクリン汗腺と皮脂腺から大量の発汗が起こります。一般に、発汗は体温の調節が中心的役割と思われていますが、汗の成分の研究から、コレステロール



## 全身電光浴装置

シンが含まれるという事実が発表され話題となりましたが、体内に蓄積されたダイオキシンが、乳腺を通して排泄されるということは、ダイオキシンのような環境ホルモンまでもが、エクリン汗腺や皮脂腺から、汗として

成分の研究から、コレステロール・エステル、金属イオン、P.C.B.のような有害化学物質の排泄作用も営んでいることが明らかとなりました。最近、母乳中に環境ホルモンであるダイオキ

排泄される可能性があることを示唆しています。もちろん、排泄経路の主役は、腎尿路と消化管に間違いありませんが、体内に吸収され皮下脂肪組織に蓄積された物質の排泄経路として、

太陽の恵み

うとすれば、少しでも照射範囲は広いことが望ましいのです。

えるということがあります。患者によつては、しばしば、どうして痛くもない箇所にまで光線照射をする必要があるのかと質問されますが、元來、光線浴は裸で全身に浴びるものであり、光線の光化学作用を最大限に得よ

皮のケラチノサイト（角化細胞）が、光線とくに紫外線の作用で種々の有用なサイトカインを分泌することからも理解できます。さらにマルチ・アーク（多灯照射）療法とした場合の利点に、

大汗腺が病気の改善とともに増え、発汗量に差が出るといふ点も興味深い事実と言えます。このように、皮膚は単に外界とのバリアーとして存在しているのではなく、分泌排泄作用、合成作用など様々な働きを行っているのです。このことは、表

排泄される可能性があることを示唆しています。もちろん、排泄経路の主役は、腎尿路と消化管に間違いありませんが、体内に蓄積された物質の排泄経路として、発汗の重要性を見直す必要があると思います。また、アトピー性皮膚炎患者では、光線治療開始初期には全く認められなかつ

今回、サナモア光線治療院で現在行っているルーフ式マルチ・アーク療法の特徴について説明しましたが、光と熱の双方の作用を併せ持つ治療法として、今後も、広く普及に努めたいと思ひます。

量とバランスに差があり、地球にもたらされた光と熱が最適だったため、地球上のみ生命は誕生したのでしょう。そして、まさに太陽の恵みを応用した治療法が、ルーフ式マルチ・アーケィテクチャと言えるのです。

系の惑星の中で、生命の存在が確認されているのは地球だけです。将来的には分かりませんが、火星人は、どうやらいそうにありません。太陽からの距離によつて、それぞれの惑星が受け取る光エネルギーと熱エネルギーの

光エネルギーと熱エネルギーの双方を、人類を含めた地球上の全ての生物に送り届けています。そして、このエネルギーがあればこそ、地球上に、あふれんばかりの種類と数の生物が生きていたのです。今日現在、太陽

104

廿二年光緒協会

趣意書

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康力を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。

サナモア光線協会は、サナモア光線療法に対する認知と評価を高めるため、一、季刊紙、「健康と光線」の発行。  
二、サナモアカウンセラーの募集と育成。  
三、サナモア光線治療師の募集と育成。  
の事業を行います。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

「健康と光線」の購読者を募集します。  
また事業の詳細はお問い合わせ下さい。

〒  
153-0063  
東京都目黒区目黒4-6-18

(本紙の無断転用を禁止します。)